第7号刊行によせて

このたび、一橋ローレビュー第7号が刊行される運びとなりました。

前号までローレビューは、修了生が司法試験受験後に編集委員を務めつつ、投稿論文の執筆も行うという体制で刊行を続けておりました。在学中受験制度の開始により、今年度からは、司法試験受験者の多数を在学生が占め、投稿者の主力であるリサーチペーパーを執筆した修了生も、その多くが司法修習中ということになりました。ローレビューの刊行を継続できるかが危ぶまれておりましたが、石田剛教授を始めとする関係各位のご努力により、編集体制を再構築することができ、無事に刊行に至りました。法科大学院出身者が在学中の研究の成果を公表する媒体を維持していることは、当該法科大学院の研究力の高さを示すものであり、ひいては活力の大きさそのものを象徴するものであります。法科大学院長として、本号の刊行を心より喜びたいと思います。

本号は、司法試験の受験を終えた在学生有志が編集委員を務めてくださり、投稿論文は、司法修習中の修了生及び在学生が執筆するという体制となりました。在学生は、司法試験の受験後も、場合によっては就職活動に従事しつつ、模擬裁判を始めとする3年後期の授業を受講しながら編集業務や論文執筆に従事されました。修了生は、司法修習中の貴重な時間を割いて、過去に執筆したリサーチペーパーを手直しする作業をしてくれました。いずれも多忙な中で、編集業務や執筆に当たられたことに敬意を表します。

本号では、修了生3名、在学生1名の方が論文を執筆されました。いずれも「法学研究」を履修し、執筆したリサーチペーパーがもとになっています。それぞれの専門性をよく表す論文となっており、執筆者各位の今後の活躍を期待させるものとなっています。

さらに本号では、3名の法科大学院教員がエッセイを寄稿しています。編集委員会からの執筆依頼に応じていただいた先生方に感謝申し上げます。普段ご執筆される論文とは趣の異なる文章を是非味読くださいませ。

本号の刊行においては、編集委員である及川路央さん、大槻凪沙さん、小倉浩平さん、熊谷駿さん、櫻町友子さん、髙橋昂右さんのご尽力がありました。記して感謝申し上げます。

2025年3月

本庄　武

（一橋大学法科大学院長）